

江戸時代から鳥取人に愛され続ける「とうふちくわ」。2003年2月には鳥取市民によって応援団「鳥取とうふちくわ総研」(所長・植田英樹)、翌2004年には日本唯一のちくわ笛奏者・住宅正人氏の手によって「楽器」にも活用、また「全国B-1グランプリ」に連続出場するなど、全国的な名物に育ちつつある。

とうふちくわ

は“とつくの昔”
に分かっていた!!

この国の政権交代とその本質



自民は、
とうふの如く
自紙です。
この先は



地殻変動といわれる今回の政権交代。しかし鳥取市在住のとうふちくわ関係者だけは、どこのマスコミより先に「事実」をつかんでいた。衆院選と同日に行われた「とうふ」か「ちくわ」かの大論争。従来から主流の「とうふ論」を唱える自民豆・麻豆太郎総裁と、「ちくわ派」を推進し新路線を提唱する民主豆・はとやま竹男代表の一騎討ちに鳥取市民が出した結論は「ちくわ」だった。この衝撃の事実から、今回の政権交代の本当の意味が見えてきた。

民主は、ちくわの見地から
見通しは明るい!?

日本政治史において画期的ともいえる今回の総選挙。その原動力は「今までやり方ではダメだ」という、旧い考え方へのNGではなかったか。ただ「今のままでヤバイ」と考えてもその「体質」からの変革は非常に困難だ。そのことが証明されたのが今回の衆院選だった。ただ自民党はこの事実をもっと早く知ることができたのを存知だろうか。あの歴史的敗北の日である8月30日の午後3時、つまり開票5時間前に鳥取市ですでに「民主圧勝」の「事実」が出ていたのだ。もちろんその現場は「選挙」だ。同日鳥取市では「T-EXPO2009」(主催：鳥取と

2009「とうふちくわ総研」でも、自民豆は完敗だった



「見事」なまでに今回の衆院選と同じ自民・民主1：3の結果だった「とうふちくわ選抜」。「名前からみれば「とうふ」かなと思ってましたが、圧倒的に「ちくわ」とは「地殻変動」。ちくわ的な視点からPRをはかれば一気に全国区もいけそうに思えてきました」(鳥取とうふちくわ総研所長・植田英樹氏)

あの8月30日に鳥取で行われた「とうふちくわは「とうふ」か「ちくわ」か」の選抜両候補者のポスターにも明確な差があった。

あとう たらう
麻豆太郎
●自民豆公認 T-EXPO イメージオヤジ
「とうふ」と書いてご投票してつかあさい
私には「とうふ」を食べる責任力がある!

「ちくわ」と書いて「投票を!」
生活第一!
ちくわ手当で
家計も安心!
「とうふちくわ総研」という、鳥取のソウルフードである「とうふちくわ」を愛するイベントが開催されていた。しかし実は裏側では自民勝手な「選挙」が行われていたのだ。争点は「とうふちくわは「とうふ」か「ちくわ」か」。伝統を譲らない自民豆(とう)の「麻豆太郎(あとう)」氏と民主豆の「はとやま竹男(ちくわ)」氏の一騎討ちだった。関係者が言う。
「麻豆さんは「わしはとうふちくわを毎日食べると、あなたも食べなきゃ」と自分視点が目立ちましたなあ。はとやまさんは「とうふちくわが毎日食べられるように手当を出す」と新しい感じがしました。20代で「ちくわ派」のはとやま氏に投票したイナロー似の男性はこう語る。「ちくわの方が「可能性」が高いわね。カタチはちくわだけど、実は「とうふなんだよ」と言うことこそインパクトがあるし知的。合コンネタに使えるかもね(笑)」
確かに「とうふちくわは「もめんとうふ7：白身魚のすり身3」という割合、成分からいえば「とうふ」だ。魅力もそこにある。しかし魅力とは押しつけるものではない。「いきなり魅力を出せばいい」ということは多々あります。麻豆さんの敗因はそこでしょう。「自己中」になってしまった。たまたまはとやまさんもこれらが要

鳥取だけは分っていた
投票日だった8月30日付の産経新聞鳥取面では「とうふちくわ「選抜の日」」の報道が。すでに分かっていたマスコミもあった!?

「ちくわ」の結果は20日(日)午後4時過ぎには判明の予定